

農 業

種 目	発 行 者 の 番 号 略 称	教 科 書 の 記 号 番 号	判 型	総ページ数	検 定 済 年
生物活用	7 実教	農業326	B5	200	平成29年

※総ページ数は、目録に記載されている数

1 調査の対象となる教科書の冊数と発行者及び教科書の番号

生物活用		冊数	1冊
発行者の略称・ 教科書の番号	実教326		

2 学習指導要領における教科・科目の目標等

【農業の目標】

農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、農業の社会的な意義や役割について理解させるとともに、農業に関する諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、持続的かつ安定的な農業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

【生物活用の目標】

園芸作物や社会動物の活用に必要な知識と技術を習得させ、それらの生物の特性を活用した活動や療法の特質を理解させるとともに、生活の質の向上を図る能力と態度を育てる。

【生物活用の内容及び内容の取扱い】

「内容」の抜粋	「内容の取扱い」抜粋
(1) 生物活用の意義と役割 ア 園芸作物，社会動物と人間生活 イ 生物活用と対人サービス (2) 園芸作物の栽培と活用 ア 草花・野菜・ハーブの栽培と活用 イ 園芸デザインとその活用 (3) 社会動物の飼育と活用 ア 社会動物の飼育としつけ イ 社会動物の活用 (4) 生物を活用した療法 ア 園芸療法 イ 動物介在療法 (5) 生物活用の実際 ア 対象者の理解と交流の技法 イ 交流活動 ウ 療法的な活動	(1) 交流対象者の安全や健康などについて十分配慮するとともに、必要に応じて地域の専門機関や専門家との連携を図ること。専門家が療法として行う行為と一般の人々がレクリエーションや教育，健康増進などを目的として行う活動の違いについて理解させること。 (2) 地域の実態や学科の特色に応じて，選択して扱うことができること。また，題材として適切な園芸作物や社会動物を選定すること。 (3) 教育や健康などに関する効果に着目した社会動物との交流とそのための飼育やしつけを中心に扱い，社会動物を活用した交流活動の準備や活動の支援も扱うこと。 (4) 園芸療法，動物介在療法の基礎的な内容を扱うこと。 (5) 安全な活動を行うために必要な交流対象者の心身の特徴や生活状況の理解及び交流に必要な技術について扱うこと。

3 教科書の調査研究

(1) 内容

ア 調査研究の総括表（調査結果は「別紙1」）

調査項目	対象の根拠（目標等との関連）	数値データの単位
a 「園芸作物の栽培と活用」を扱う単元の数とページ数及び全体に占める割合	内容（2） 園芸作物の栽培と活用	個、ページ、%
b 「社会動物の飼育と活用」を扱う単元の数とページ数及び全体に占める割合	内容（3） 社会動物の飼育と活用	個、ページ、%
c 「生物を活用した療法」を扱う単元の数とページ数及び全体に占める割合	内容（4） 生物を活用した療法	個、ページ、%

イ 調査項目の具体的な内容（調査結果は「別紙2」）

① 教科書の特徴をより明確にするため、具体的に調査研究する事項

<上記調査項目関連>

- a 「園芸作物の栽培と活用」に関する内容
- b 「社会動物の飼育と活用」に関する内容
- c 「生物を活用した療法」に関する内容

<その他>

- * 防災や、自然災害の扱い
- * オリンピック、パラリンピックの扱い

② 具体的に調査研究する事項を設定した理由等

- ・ 学習指導要領に定められた3点の大項目「園芸作物の栽培と活用」、「社会動物の飼育と活用生物を活用した療法」、「生物を活用した療法」は、園芸作物や社会動物の活用に必要な知識と技術を習得させ、それらの生物の特性を活用した活動や療法の特質を理解させるとともに、生活の質の向上を図る能力と態度を育成する上で必要な学習内容であるため、各項目に関わる記述について調査することは、教科書の全体を概観する上で重要である。
- * 東京都では、自然災害時における被害を最小化し、首都機能の迅速な復旧を図る総合的なリスクマネジメント方策の確立が喫緊の課題であり、防災教育の普及等により地域の防災力の向上が重要であることから、防災や自然災害の扱いについて調査する。
- * 東京都教育委員会教育目標の基本方針2・3に基づき、文化・スポーツに親しみ、国際社会に貢献できる日本人を育成するという観点から、オリンピック・パラリンピックの扱いについて調査する。

(2) 構成上の工夫（調査結果は「別紙3」）

- ・ コラム、資料、トピックスの扱い方
- ・ 視覚的資料（写真、図・イラスト、グラフ、表など）
- ・ 編集上の工夫、その他

「別紙1」 【(1) 内容 ア 調査研究の総括表】 (生物活用)

調査項目			a			b			c		
			個	ページ	%	個	ページ	%	個	ページ	%
実教	326	生物活用	2	58	29.0	4	50	25.0	3	24	12.0
平均値			2	58	29.0	4	50	25.0	3	24	12.0

(全体のページ数)

200

・全体のページ数は、巻頭・巻末資料を含めて数えている。

・a、b、cの各単元のページ数において、単元最初の扉ページがある場合にはそのページも含めている。また、割合については、全体のページ数に対する単元のページ数の割合を小数第2位で四捨五入した値である。

「別紙2-1」【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 発行者 実教326】 (生物活用)

調査項目	a 園芸作物の栽培と活用	b 社会動物の飼育と活用	c 生物を活用した療法
単元名	<p>第3章 園芸作物の栽培と活用</p> <p>1 草花の栽培と活用</p> <p>①草花の種類と特性</p> <p>②園芸デザイン</p> <p>③花壇の活用と管理</p> <p>④フラワーデザイン</p> <p>⑤室内園芸装飾</p> <p>⑥地域緑化, 都市緑化</p> <p>⑦バリアフリーとユニバーサルデザイン</p> <p>2 野菜・ハーブの栽培と活用</p> <p>①野菜の種類と特性</p> <p>②野菜の栽培</p> <p>③野菜の加工・利用</p> <p>④ハーブの種類と特性</p> <p>⑤ハーブの栽培</p> <p>⑥ハーブの利用</p> <p>⑦コンテナ栽培</p> <p>⑧キッチンガーデン</p> <p style="text-align: right;">(2)</p>	<p>第4章 動物の飼育と活用</p> <p>1 イヌの飼育と活用</p> <p>①イヌの種類と特性</p> <p>②イヌの飼育と管理</p> <p>③イヌの活用</p> <p>2 ウマの飼育と活用</p> <p>①ウマの種類と特性</p> <p>②ウマの飼育と管理</p> <p>③ウマの調教と活用</p> <p>3 ネコの飼育と活用</p> <p>①ネコの種類と特性</p> <p>②ネコの飼育と管理</p> <p>③ネコの活用</p> <p>4 そのほかの動物の飼育と活用</p> <p>①ウサギ</p> <p>②ハムスター</p> <p>③モルモット</p> <p>④ニワトリ・オウム・フィンチ類</p> <p>⑤カメ</p> <p>⑥観賞魚</p> <p>⑦昆虫・虫</p> <p style="text-align: right;">(4)</p>	<p>第2章 生物を活用した療法</p> <p>1 生物を活用した療法</p> <p>①生物を活用した療法とは</p> <p>②植物を治療に活用する</p> <p>③動物を治療に活用する</p> <p>2 園芸療法</p> <p>①園芸療法とは</p> <p>②世界や日本における園芸療法の実際</p> <p>③プログラムを考える</p> <p>3 動物介在療法</p> <p>①動物介在療法とは</p> <p>②世界や日本における動物介在療法の実際</p> <p>③プログラムを考える</p> <p style="text-align: right;">(3)</p>

「別紙2-2」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 防災や、自然災害の扱い】 (生物活用)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
実教	326	生物活用	有 無	<p>写真</p> <p>本文</p> <p>本文・図</p> <p>本文</p> <p>本文</p> <p>本文・写真</p> <p>脚注</p>	<p>人と生物とのかかわり</p> <p>動物介在教育</p> <p>飼い主が守るべきこと</p> <p>日本における園芸療法</p> <p>室内園芸装飾の活用のポイント</p> <p>さまざまな場面における犬の活用</p> <p>日常の管理</p>	<p>がれきでの訓練を行う災害救助犬</p> <p>動物介在教育によって災害救助犬などの仕事をする動物を知ることにつながる。</p> <p>「動物の愛護及び管理に関する法律」では、災害に備えることが定められている。</p> <p>2002年に阪神淡路大震災の復興の一環として、兵庫県で園芸療法士の教育が本格的に始まった。</p> <p>室内に植物を置くことは、過剰となると地震や火災時の危険性など、日常生活や仕事に支障が出ることもある。</p> <p>災害救助犬の役割と日本での認知。災害救助犬が被災者を探し出す嗅覚の特性。災害救助犬の所属。</p> <p>同行避難：環境省が定めた災害時におけるペットと避難するためのガイドライン。</p>

「別紙2-3」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 オリンピック、パラリンピックの扱い】 (生物活用)

発行者	教科書 番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
実教	326	生物活用	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	コラム 本文	ウマの障害飛越競技 乗馬療法	障害飛越が本来得意でないウマが行うスポーツ。動物が主役の唯一のオリンピック種目。 ポリオを克服してヘルシンキオリンピックに出場し、馬場馬術で銀メダルを獲得したリズ・ハートルは多くの障がい者に希望を与えた。

「別紙3」【(2) 構成上の工夫】(生物活用)

発行者	教科書番号	教科書名	構成上の工夫
実教	326	生物活用	<ul style="list-style-type: none"> ・実物写真が豊富である。 ・手順の図が詳細で分かりやすい。 ・特殊な用語に振り仮名が付いている。 ・植物、動物の解説が歴史、法律など多面的に論じられている。 ・植物及び動物を介した交流活動の実施では、高校での実例が成果と課題を含めて載っており、活動導入に役立つ。